

まえがき

この報告書は、本センター研究部を中心に組織された日本学術振興会の科学研究費による研究プロジェクト「国立大学における学内資金配分の変動過程に関する総合的研究」の第一次の研究成果をとりまとめたものである。

当該調査は、法人化前後における学内資金配分の変動過程を明らかにすることを目的としたものだが、本報告書にはこのうち、法人化前の学内資金配分の状況について調査した結果を収録した。引き続き平成17年度には法人化後の学内資金配分に関する実態調査を予定しており、双方の結果を比較検討することにより、その変動過程と学内資金配分をめぐる問題点の分析を進め、また、財務経営面での優良実践（Good Practice）大学とは、どのような大学であるのかについても、明らかにされることが期待される。こうした一連の調査結果が、それぞれに財務戦略を持ち財務運営に責任を負うことになった国立大学法人にとって、実践的に役立てられることを願っている。

この種の研究プロジェクトは、これまでほとんどなく、その意味で先駆的な取り組みの意義は大きいと自負している。法人化後の実態についての調査をふまえた研究のさらなる展開に期待したい。

最後になったが、調査研究にご協力下さった国立大学法人の学長をはじめ多くの関係者の方々に深甚なる敬意と感謝の念を表す次第である。

平成17年6月

国立大学財務・経営センター

理事長 遠藤 昭雄